

7/21 選挙

真つ最中

なかなか一つになれなかつた野党が政策協定をまとめた。一強の日本会議政権にお灸を据えたいものだ。この選挙に一石を投じた「れいわ」も見逃せない。来たる衆院選を見据えて反アベ野党各党、共同の加速を望みたい！◆7月投句の課題は「選」です。



最強の週刊誌 「週刊金曜日」

今月の秀句

石段に人影残す広島忌  
非正規に年金老後カヤの外  
トラの威を借りて世界に恥さらす

遠田亀公子  
遠田亀公子

中野林

3句が並んだ。戦争と生活と外交。戦後三代の日本を象徴している。戦後復興から生活向上を求めたはずが、現在、アベの登場で国際信用ガタ落ち。(周)

例会案内

7月例会 7月25日(木)  
投稿締切 23日(火)  
課題「選」 3句以内  
自由吟 5句以内  
自選句、自解筆もぜひよろしく。

目次

川柳互選	2
課題吟「石」	3
自由吟	4
自選句	5
おたより	5
ほのぼの川柳	9
石を探して	10
プロレタリア文学の盲点⑧	11
従軍作家・林芙美子	16
シベリア抑留の記録⑨	11
故・秋山茂氏の手記	16
編集後記を兼ねて	16



◆自由吟 (互選)

一人5句以内吐

来たる夏元氣一杯闘おう

和子

縁と言う一字煩わしくもある

ダン吉

1 参院選 市民野党で アベ打倒

宏

1 陛下には摩文仁に今日は居てほしい

一角

1 無能リーダー選んだ責任だれがとる

未知子

1 私利私欲アメリカのポチ安倍晋三

和子

1 毎日が平和ののぼりなびかせて

一角

1 嘗て国連というものがあつたとか

未知子

1 晴れ男行つた日だけ降りもせず

一角

1 巧言令色 すくなし アベ与党

宏

2 手の届く辺りに夢を描いている

ダン吉

2 民主主義賢い民が居つてこそ

未知子

2 イラン脅す米にすり寄る安部首相

徹乗

2 生きてるか本音を君は言うてるか

ダン吉

2 カスミ食つて 生きる方法 教えてよ

宏

2 何度目の「慰霊の日」なのアメリカ世

林

2 年金デモ若者たちがあふれ出る

白眞弓

2 安倍出てけ年金5万奪われた

和子

2 いとし子を社会の軋轢手をかけて

和子

2 独りだと腹決めた時見えてきた

ダン吉

2 手を繋ぐ何かに通うものがある

ダン吉

2 市長さんできてる署名回してた

一角

2 太る安倍太るあそくに贈り物

和子

2 飾るもの何にもなくて汗流す

ダン吉

2 自衛隊米軍守る隊となり

徹乗

3 耳垢が詰つてませんか総理殿

亀公子

3 胸騒ぎ世界の正義揺らいでる

未知子

3 日本から離れて本音出る議員

広助

3 米武器を買つてぶつ飛ぶ保育園

林

3 あの口を止めたい一票握りしめ

立東爺

3 爆買いでGDPを押し上げる

立東爺

3 子を護るホームベースが揺れている

立東爺

3 付度が官邸主導ヨイシヨする

亀公子

3 年金の 二千万不足 マクロ止め

宏

- 3 小六は伝えることを凜と述べ 白眞弓
- 3 自助努力は 株投資やれ もうけ大手 宏
- 4 夢希望老後を砕く報告書 立東翁
- 4 年金も奨学金も詐欺つてる 白眞弓
- 4 核心をつけば与論も動き出す 広助
- 4 大口で年金喰らう消費税 林
- 4 現実は見ません受け取り拒否します 徹乗
- 4 沖繩の心わかれば鳩が飛ぶ 広助
- 4 政権を世襲議員がもて遊ぶ 広助
- 5 ノーモアと海越え若手行進し 一角
- 5 平和には安保と基地が要る矛盾 広助
- 5 アクセルを踏み間違える足の裏 亀公子
- 5 年金を減らして爆買い武器狂い 林
- 5 握手して帰るだけならただの人 亀公子
- 5 国民疲弊国防予算増え続け 徹乗
- 5 65これから稼ぐ2000万 白眞弓
- 6 死ぬまで働けと年金制度は言っている 徹乗
- 6 心配である世に行けない人が増え 未知子

6 丁寧に殷勤無礼の種を蒔く 立東翁

7 改さんも隠蔽もある一等国 白眞弓

8 非正規に年金老後力ヤの外 亀公子

8 トラの威を借りて世界に恥さらす 林

《注・「和」の選句は「互選」です。他の柳社でも自己作品は選ばないのが「原則」です。うっかり選ぶこともあります。今回目立った方が居られたので、お気づきの方、今後ご注意ください。》

## 自選句

### ◆自選句 中野林

イランにて物笑いの種蒔く総理

手も足も出せずに帰る安倍外交

四島で転んでしまった安倍コケシ

ひたすらに審議拒否して逃げまくる

八月の異国の田畑惨禍ある

年金が食い物なんです政財界

人の手を焼かして病まぬ原発の火

◆自選句 前田大峰（病室にて）

あかつきに燃えさかる鶴の石

◆連作 平和行進 岩原一角

町長さん平和行進待ち構え

核兵器なくしましょうと町長さん

この里の町長さんはまじめだよ

町長は保守の人だと聞くけれど

・・・

最近、私は泥臭い川柳を吐きたいと思うのだ

が、まさしく泥臭くできたと自賛しています。

おたよりから紹介します

◆渡辺尚弘さんより（名古屋市中）

和川柳社に入会します。

昨年の鶴彬演劇祭の翌日は、内灘闘争地や金沢の

鶴彬碑の案内等で大変お世話になりました。ありが

◆ほのぼの川柳 《投句歓迎》

いざプール慌てていくが寒かった 神田 鯛

タモを持ち気合いはあるが蟬おらず 神田 鯛

選挙戦公約見ても 眠くなり 真人我

白昼の鏡にうつった他人様 おにどん

与党公約ずっと昔に聞いたよね ひろ

目が覚めて思い出せない今の夢 ひろ

とうございました。

あれからすぐ内灘闘争に関する書籍をネット古書店  
で入手し、学習しました。

昨日、『はばたき』が送付されてきた際、和川柳社の  
会報が同封されていました。

目次を見ると、「プロレタリア文学の盲点」がありま  
したので、早速興味深く拝読させていただきました。

昔、榎村浩全集を購入していますので、機会があつ  
たらもう一度読んでみたいと思っています。

## ◆おたより 浜本大蔵さんより（神奈川県）

会報の購読を申し込みます。

追伸 鶴彬通信に同封されていた会報を拝読しました。

「和の上に銃をかまえた令の影」に感銘しました。

私は、川柳は全く素人です。つくった経験もありません。一般のマスコミ紙に載っている川柳は、戦後の日本の空洞化した「豊かさ」を反映しているのでしょうか、ぶよぶよとふやけた作品が多いと思ってきました。久しぶりに身の引き締まった作品を味わうことができました。さすが鶴彬の血筋を受け継いでいるのかなあ、と思います。

私は鶴彬を知って、初めて川柳に出会いました。鶴彬の「胎内の動き知るころ骨がつき」「手と足をもいだマルタにしてかえし」をなにかの本の中で引用されていたのです。その時はこんな川柳を作り出せるのは関西人に違いないと勝手に思い込んでいました。

ところが10年前でしょうか、高校時代の友人、角島広治君から「鶴彬を顕彰する会」の入会を求められて、鶴彬は私と同郷、ふるさと・石川県の出であることを初めて知り、誇らしく思いました。

それ以来、教室で鶴彬を学生に紹介してきました。

「はばたき」第7号に角島君が要約した、わたしの「講義」草案が載っています。

数年前に角島君の案内で高松の街も案内してもらいました。昨秋、高松の友人から角島君が転んで怪我をしたとそれとなく聞きましたが、「はばたき」の発行が遅れているのはそのせいかなと思ながらも、いずれ回復するのだろうと思っていました。

「はばたき」で訃報を知り驚愕しています。六十余年以前の友人を喪い、その喪失感に身を沈めていきます。

私は金沢の大野の出で、和川柳社のある金石の中学校に通いました。その頃のこのあたりは一面の田んぼで、夏休みが近づく頃はそろそろ稲の白い可

憐な花が咲く頃でした。金石中学校から稲穂の波に頭だけを出して渡りきり、三善製紙の工場をぐるっと回って、銭五の銅像と要蔵磔の松の脇を通って大野の坂を下りました。

遅くなつての暗い夜道は、とりわけ磔の松が恐ろしくて目をつぶる思いで駆け抜けたものです。金石は芭蕉も寄つたところ、俳句がさかんで、犀星が下宿した松原の尼寺（明月院）だったかな？

では句会がもたれていて、中学校の帰り道に誘われて何度か出席した覚えがあります。

◆おたより 岩佐ダン吉さんより（大阪）

鶴彬獄死の地 東京での顕彰碑に「手取川の石を！」会報六七〇号からの和川柳社同人の前田大峰周立東爺さんの訴えに感動しています。

例えば大阪城公園内の建立運動でも「碑」を探して相当な苦勞の日がありました。川からの採取は自然保護の観点から、最後には「中国からの輸入では」

の声までありました。

◆おたより 乱鬼龍さんより（東京）

石川県から「東京の鶴彬句碑建立のための巨石を提供」というありがたいお申し出を受け、高松での9月の「鶴彬墓前祭」「碑前祭」参加も兼ねてその「巨石」と見に行くツアーを考えています。「鶴彬を顕彰する会」の小山さんから一報が届きましたので、取り急ぎご一報させていただきました。（時間が許せば、「金沢21世紀美術館」で「粟津潔展をやってるので、視たいと思います。」）

◆おたより 平宗星さんより（東京）

はじめてメールいたします東京川柳会・副主宰の平宗星です。

先月の顕彰会の会合で、新宿区から剣花坊・信子・鶴彬・鶴子が昭和2年から「川柳人」を発行した柳樽寺川柳会のあつた杉並区に鶴彬の句碑を建立して

はどうかという案が出され、生まれも育ちも杉並の私  
が中心となり、現在、柳樽寺川柳会のあった場所をな  
どの調査活動しております。

昨日、当時の地図を杉並の図書館で閲覧し、その場  
所を確認できました。そこは、現在、馬橋公園という  
杉並区民の憩いの場となっており、そこに鶴彬の句碑  
を建立するのが最適な場所と考えられます。

この件は、東京鶴彬顕彰会だけでなく、杉並区の  
九条の方々も鶴彬の句碑の建立に支援して下さいお  
り、今月の選挙後、具体的に句碑建立に向けてどう活  
動をするかなど話し合いの場を設けることになってお  
ります。

鶴彬を考える時、やはり剣花坊、信子、鶴彬、鶴子、  
佐藤岳俊と続く柳樽寺川柳会の「川柳人」の存在を扱  
きには考えられないと思います。

「川柳人」800号を境に大石鶴子から佐藤岳俊に  
主宰が変わり、現在に至っております。そして801  
号より、「川柳人」の発行は柳樽寺川柳会から川柳人

社に変更されましたが、大石鶴子さん存命中は、杉並  
区に昭和2年より柳樽寺川柳会が発行所となり、そこ  
で鶴彬は森田一二に連れられ、剣花坊、信子、鶴子と  
出会い、この年に川柳人に評論を投稿し、鶴彬と名乗り、  
川柳作家の道を「川柳人」を通して突き進んでいきます。  
その意味で杉並区は、鶴彬を川柳作家として育てた  
重要な地であり、その柳樽寺川柳のあった杉並馬橋は、  
現在、馬橋公園として杉並区民の憩いの場になってお



ります。また杉並区は、非  
核宣言都市として多くの文  
化人が住んでおり、今年も  
杉並の平和の祭典で鶴彬の  
写真展が開催されます。特  
に九条の会の人びとが中心  
になっておりますので、選  
挙後、この方がたと連絡を  
とり、鶴彬顕彰句碑のご協  
力を仰ぐ予定です。

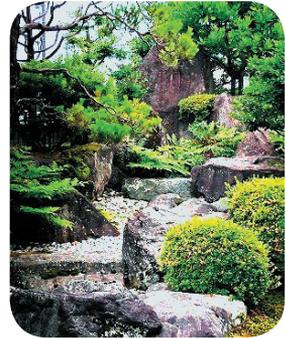
# 東京へ送る石を探して～



かほく市白尾の巨石群  
(高松の小山さんと)



石捜しをしています。  
この間に見た石の一部  
を紹介します。



第1候補でした。「邪魔で  
仕方がない」と言われてい  
たのですが…。(金沢)



小松市滝ヶ原の採石場。大小の石工屋さんが自然石も保管してます。採石された石は国会議事堂にも供給された有名な場所だそうです。採石場内は入れます。超涼しい。小川の流れる広場もあり、家族連れに最適地。



「巨石を東京へ」という発想は、一向一揆終焉の地・旧鳥越村の石を東京へ贈りたいとの思いでしたが、広大な手取川扇状地に点在する集落に手取川由来の庭石が放置されていることが分かりました。また、かほく市白尾に閉鎖された第三セクターの庭石が市に管理されています。これも有力な候補。小松の滝ヶ原採石跡にも石がたくさんありました。候補がどんどん増えそうです。

「石」の情報をご連絡下さい。編集部まで。

## プロレタリア文学運動の盲点 ⑧

## 従軍作家・林芙美子

周 立東爺

国民を戦争へ洗脳するペン部隊の一員として、戦地に行き、そこで日本軍の活躍を勇ましく書き、戦争を賛美する作家達。総勢三十人以上の作家の中に、林芙美子（1903～1951）がいた。

貧しい生い立ちを元に書いた『放浪記』がベストセラーとなり、文壇の仲間入り。南京攻略戦には、毎日新聞の特派員として現地へ。武漢作戦には、内閣情報部の『ペン部隊』の紅一点として従軍、陥落後の漢口へ一番乗りし『北岸部隊』などを著した。

『軍国主義を太鼓と笛で囃し立てた政府お抱え小説家』とも評された林芙美子であるが、今では、森光子の主演『放浪記』などもあり、戦争賛美の作家と知る人は少ない。そうした中、井上ひさし晩年の傑作と評される『太鼓たたいて笛ふいて』は林芙美

子の後半生を描いている。箇条書き風に要約する。

- ① 「いくさは儲かる。いくさは楽しい。」と太鼓たたいて笛をふく“ために従軍記者として南京、漢口、ボルネオなど戦地へ赴く。
- ② 戦地で芙美子は自分が信じていた物語のウソに気づく。
- ③ 芙美子は戦争賛美的な文は一切書かなくなり、「この戦いくさはきれいに負けなくてはいけない」と発言、特高の監視下に置かれる。
- ④ 帰国後、乳児院から生後間もない男の子を引き取り養子として育てる。
- ⑤ 戦後は傷痕軍人や戦争未亡人、孤児を主人公にした小説をたくさん書く。
- ⑥ “太鼓たたいて笛ふいた”責任を重く感じて書きまくる。そして死去。

.....

井上ひさしの林芙美子の評価は、プロレタリア文

## 第24回『鶴彬』川柳大賞

自由と反戦をつらぬいた魂の川柳作家《鶴彬》  
彼の思いを受け継ぐ川柳を全国から募集します。

### ～応募要項～

作品内容：現代を鋭く風刺した、新しい感覚の川柳を募集。  
投句料：一人につき1,000円。〒定額小為替を利用。  
応募期間：6月10日～7月31日(火)当日消印有効  
賞：鶴彬大賞1点 賞状、副賞1万円相当かほく市特産品  
優秀賞3点 賞状、副賞5千円相当かほく市特産品  
佳作5点以内 賞状、3千円相当かほく市特産品  
発表：9月1日(日)かほく市第33回鶴彬忌川柳大会にて  
選者：本田一三一(石川県川柳協会会長)、伊東志乃(富山  
県川柳協会副会長)、赤池加久(宝達川柳会会長)、遠  
田亀公子(かほく市川柳協会)  
応募先：〒929-1215石川県かほく市高松ク42-1  
かほく市高松公民館 第24回鶴彬川柳大賞公募係宛  
問い合わせ先：事務局小山宛(電話FAX.076-281-1201  
鶴彬を顕彰する会 Email:turuakira@yahoo.co.jp

詳しくは同封チラシをごらん下さい。

学の盲点にも関わる新しいテーマなので、更に深めたいとおもう。また、戦時下に執筆を禁止された作家達の生き方も関わるし、いわゆる転向文学の評価にも繋がる。次号にも続く……。

## シベリア抑留の記録

9

「在ソ三年 生と死のドラマ」

故・秋山茂氏の遺稿より

前回までのあらすじ

一九四五年、敗戦と同時にソ連軍に捕縛されシベリヤで強制労働を強いられる。厳寒の森林での伐採。既に二年半経過。隊内で威をかる傲慢な人間も出て来る。一九四八年正月、マリタの山の伐採をすることになった。

連日、零下三十度での伐採作業続く

雪深い山奥の伐採地に下ろされた私達中西少尉を隊長とする八〇名余りは直ぐ附近の白樺を伐って炊事場とソ連兵用の長さ五米程のゼムリヤンカ(穴倉)二棟を造り、中隊の大部分は既設の大きいゼムリヤンカに、少し離れた処にある小さなゼムリヤンカにはイルクツクで合流した大高中隊の某曹長を中心

「心に刻まれたシベリヤの記憶」 ネットから



とするボスグループと炊事を交代した私達が這入った。

外気は連日零下三十度前後であり、伐採が進につれて体力に物をいわせた山野や唐沢などは何時も早々と伐採のノルマを了えて誰よりも早くゼムリヤンカに引揚げていたが、体力のない者や疲労の甚だしい者達はノルマの達成が出来ず午後七時から八時頃漸く帰って来て、冷へた粥をすすって就寝、翌早

朝から又伐採という生活に間もなく道を歩くのに杖すがに縋る者が目立ちはじめた。

ソ連人の現場監督は山野達のことを「ハラシヨ、ラポーター（よい労働者）」と云つて讚えていた。

伐採は二人一組である。私は炊事で一緒だった関東軍の軍属で奉天で捕まったという吉田（鳥取県出身）

とペアとなり毎日々々伐採をしていたが、膝を没するような新雪の中の仕事は決して容易なものではなく多くの危険があった。午前六時、凍てつく寒気の中で、ゼムリヤンカを出発した我々は二人用のピラー（鋸）一とタポール（斧）一と与えられ、細い雪道を一キロ余り歩いた末、山狩りでもするように山麓から上に向い夫々の前面に向かって斜面を伐り進み、今度は伐り倒した白樺の枝をはらい本幹一米宛に輪伐りにした上、一箇所に集め崩れないよう小枝を挟んで細工し、高さ一米長さ三米の長方形に積み重ね枝葉を焼き払うのである。その際、伐り株は地表より十センチ以内と定められていた。こうして監督（マツセル）の測定検査で「ハラシヨ」といわれはじめて帰ることが出来るのだが、朝山裾に展開した時、正面の立木の状態でノルマに大きな影響があった。

伐り倒すだけで一日がかりの直径一米もある樅モミの大木に出会う者があると思へば、反対に割り箸を思

わせるような直径十センチ内外の白樺が密生した処であつたり、自然林であるだけに一樣でなく日没後なお伐採を続ける人達の姿を焚き火の明るさが幻のように此処彼処こゝかしこに膝を没するような新雪の中の仕事は決して容易なものではなく多くの危険があつた。

伐り倒すだけで一日がかりの直径一米もある樅ヒノキの大木に出会う者があると思へば、反対に割り箸を思わせるような直径十センチ内外の白樺が密生した処であつたり、自然林であるだけに一樣でなく日没後なお伐採を続ける人達の姿を焚き火の明るさが幻のように此処彼処こゝかしこに浮かび上がりせ夢想だになつた哀れな同胞の姿に奥歯を嚙んで嗚咽したことも一再でなかつた。

## 第八章 斗いの果て斃たおれる

電気の無い上下二段造りのゼムリヤンカの中は昼間でも薄暗く殊に下の段は夜昼の区別も余りないという状態である。

私は下段中央の手製の梯子が取り付けてあるところに位置していた。私の両隣には炊事勤務と一緒にやつた吉田某と開拓団から召集されたという若い佐野某（長野県）など炊事を下番した音が寝起きし、上段は某曹長を中心に山野唐沢達のグループ七、八名が独占していた。上段からは時折り元氣な笑い声も洩れていたが下段は誰もが疲れの為だろうか、一枚の薄汚れた毛布と外套にくるまつて蓑虫のように唯寝るだけという毎日であつた。どの位い眠つたであらうか？ 或る夜、もう真夜中と思われる頃、私は頭上の話し声にふと目をさました。

「おい高橋！もう一度行つて来いよ。川島にもう一杯俺が呉れといったと云つてな」

「はぐ」

何時も山野や唐沢などから高橋々と下僕のように使われ乍らも「寄らば大樹の陰」でずんぐりとした若い兵隊の高橋がバケツを持って、がちやがちや音をたて乍ら私の頭に近い梯子を下りてワレンスキ

ー（フェルト製の防寒長靴）を穿くと表に出て行つたが暫くして彼はバケツ一杯の燕麥の粥を持ち帰つた。と思うと二階から熱い粥をすする音や器の音に混じつてひそひそ話が聞こえて来た。

炊事では毎日夕食後翌日の朝飯、といつても燕麥の中に野菜と肉を入れた雑炊のような粥を炊いて準備し、勤務者一名が監視のため泊まっているのである。彼等一連のグループでは泊まっている勤務者に強要して全隊員の上前をはねており炊事では仕方がないから取られた分だけ水を加へて薄め辛うじて定量をみたしていたのである。

### 空腹での争い 正義感が頭をもたげる

一日三食のうち一食が黒パンで二食が雑穀の粥で、一個二キログラムの黒パンが七人切りだ、八人切りだ、と云つては騒ぎ、粥が硬い、柔らかい、分量が多い、少ない、と云つてはもめる日々であつたが、それだけ皆な空腹なのである。夢にまで白い飯や餅

を見るといふ悲境にあり乍ら日本人が日本人の血を吸うような振る舞いを見逃し得ようか！ 私の衰弱した体の奥底に潜んでいた正義感とも云へる勇氣が頭をもたげ憤りはやがて悲しみと変わりなかなか寝付かれない。

「秋山さん！ 黙っていた方が得だよ」

眠っていたと思つた佐野が私の気配でそれと察したのかそつと耳元で囁いた。彼も二階の様子が判つていたらしい。佐野も私同様、此処では居候的な存在で空腹を我慢はしているが逐一彼等のやることを知り乍らも暴力を恐れたのである。

「若い人には無理かも知れないが俺は一人悪者になつても構わんから二応彼等の行動を中止させなければならぬ」 そう決心した私は翌日伐採から帰ると先ず以前私の分隊員であつた炊事勤務の川島某に注意した。ところがその次の日、暮れるに早いシベリヤの冬、既に夜の帳が下りた午後五時半頃だろつか、伐採から帰つた私が薄暗いゼムリヤンカに一

歩足を踏み入れた途端頭上から「一寸待て」と呼び止められた。

振り仰いで見れば既に先に帰った曹長のグループの者達が憎々しげに私を見下ろし一同を代表するかのよう山野兵長が、

「秋山さんあんたつまらんこと云わぬ方が身の為だぜ！」

と彼としては精一杯凄みを利かした心積もりでこう云つて来たが、私の無言の俛まへで憤りを面に現した視線を避けた曹長や唐沢はあらぬ方向に目をそらしていた。

「俺はつまらぬこととは思わない。君等こそ考えなおして貰いたい。俺達は此処まで連れて来られ明日の運命も判らない。みんな苦しみ、誰だつて空腹なんだ……。なのに君たちは……」

激昂した私に漸よっやくこれだけ反抗することが出来たが、あとは言葉にならなかつた。

「とにかく秋山さん、今日限り此処を出て呉れ」

これだけ云うと山野はふいと横を向いた。

普通なら彼の鉄拳が私の頭上に振り下ろされただろうが約半年間炊事勤務を共にした仲であり、私が銃剣道三段ということを知っているためか流石に殴りかかることはなかつた。あとから無理に此処に割り込んだ私であるから仕方がない。

私は無言の俛まへ、僅かな装具と毛布を抱えて凍り付くような寒さの表に出た。

見上げれば今夜も北極星が頭上に輝き、天の川がくつきりと白味を帯びて浮かび上がって見え、明日も快晴らしいが相変わらず寒気は烈しい。風もない天空を眺めていた私の頬に一条すーっと流れた涙を防寒帽の中に意識したが、それが何の涙か判らなかつたけれども、戦争に敗れ逆境にたつた日本人の情無い姿に対する憤りの涙であつたように思う。

(次回に続く)

注：難しい漢字や言い回しが続きますが、なるべく秋山さんの遺稿に忠実にしようと考えています。(周)

## 編集後記を兼ねて

◆選挙のまつただ中、選挙運動に参加される  
 同人の方もおられるでしょう。◆先月「鶴彬  
 を顕彰する会・はばたき」発送の封筒に「和」  
 の見本とチラシを同封したことで、名古屋  
 神奈川、東京から連絡いただき、メールの一  
 部を紹介させていただきました。◆「東京へ  
 巨石を贈りたい」の提案が大反響で、石を探  
 すことが大仕事になっていきます。「鶴彬を顕  
 彰する会」の幹事会にも紹介、「かほく市白

## 7月例会「案内」（毎月第4木曜に変更！）

- ◆例会 7月25日（木） ◆投稿×切：23日（火）厳守
- ◆課題「選」 3句以内 ◆自由吟：5句以内
- ◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、「意見なども  
 お願いします。川柳に関する資料などもご紹介下さい。
- ◆句報を持参下さい。例会で話し合います。
- 投稿 FAX（076）254-0762
- メールアドレスは下段に。

郵送は  
 下段住所へ。

尾の巨石はどうか？」など、こちらも話題  
 沸騰です。◆今年の鶴彬フェスティバル（9  
 /16）までに「石」が決まると、今年の鶴  
 彬を顕彰する活動にはずみがつきますね。  
 東京の鶴彬顕彰会からも石を確認に来られ  
 る様です。◆私事ですが、小生、日勤の仕  
 事に付くことになり、会報編集時間が大変  
 窮屈になっていきます。発行も大延びになり  
 ました。申し訳ありません。◆7月例会の  
 課題は「選」です。選挙終了後の7月23日  
 を投稿×切（厳守！）としました。（周）

「和川柳社」会報  
 会員募集しています！

同人：4000円/年  
 投句/購読：2000円/年  
 ★会報の他に、関連資料など  
 もお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30（渡辺 寛）

電話 FAX：076-254-0762 PC-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp

振込先：北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」